

タイの重度肢体不自由児向け座位保持キットの製品開発および実証試験

一般社団法人 日本車椅子シーティング協会

〒105-0014 東京都港区芝2-2-1 2 ロイヤルマンション金杉301

助成事業の概要

タイの理学療法士など現場の福祉専門職が自分自身で製作・調整できる、強化段ボールを素材とした座位保持椅子を中心とする基本的な座位保持キットの製品開発が、事業の目的である。

今回の事業では、

2018年2月 タイ側協力団体との打ち合わせ

4～5月 タイ国での第1回調査研究事業：コンケン県第9地区特殊教育センターで座位保持キット試用品を用いたワークショップを開催。マヒドン大学理学療法学部にて同キットを用いた姿勢保持クリニック、国立障害児入所施設バーン・ファンファーにて同キットを試用。9月の調査研究事業を共催団体 CCD と打ち合わせ。北部プレー県・聖ジョセフセンターで、使用している強化段ボール椅子のモニターを実施。

6～8月 第1回調査の成果を踏まえ座位保持キットの姿勢支持部の仕様を検討。

9月 タイ国での第2回調査研究事業：バーン・ファンファーにて改良した椅子を試作。チャイナート県マノローム郡で座位保持キットを用いた講習会を開催し試用。バンコク都バンプラット区障害児学習センターで座位保持キットを試用。

2019年1月 マヒドン大学理学療法学部などタイ側協力者との打ち合わせ、次年度事業計画を

立てる。

事業の成果

まず今回の事業を通して、タイの15名以上の寝たきりの障がい児に座れる椅子を供給できたことは一つの確実な成果である。そして、4月と9月の講習会では合計80名前後の理学療法士、養護教員、障がい児の家族などに姿勢保持の基礎を学んでいただき、また強化段ボールの椅子を使ってその製作の実際を体験していただき、姿勢保持が決してお金がなければできないわけではない、身近な技術であることを知っていただけた。講習者からの評価は高く、4月のコンケンでの講習後のアンケートでは、51名の回答者について、5段階の評価（1～5点で4項目に関して採点、2項目の自由記述）で平均4.64点の評価であった。

申請者にとっては、これらの事業を通して今後のタイでの姿勢保持の普及を目指す上で、今回試用した座位保持キットをどう改良して行くべきかが明らかになった。それは、椅子に関していえばサイズの多様化（大きいサイズへのニーズに応えることと、そのための強度を担保したデザイン）、使いやすさ（ティルトのしやすさ、姿勢支持部の取り付けやすさ）などデザインの改良とテーブル・足台などを最初からセットにしたパッケージ化、姿勢支持部の基本的セットの仕様を確定して規格化することである。

これらは今回の調査研究事業を踏まえてすでに図面になっているが、同様に重要な今後の課題として、こうした姿勢保持の基礎、および強化段ボールの加工法や椅子の製作、そして主にウレタンフォームを切って作る姿勢支持部の製作に関する、構成された教材やマニュアルの製作が欠かせないことが確認された。

これらの課題に関しては、2019年1月のミーティングで、マヒドン大学理学療法学部との協力のもとに取り組むことが決まり、また懸案であったタイ国内での姿勢支持用ウレタンフォームの供給に関しても、イノアック・タイランド社のご協力を頂けることが決まった。本事業はタイ側に手渡せるところを手渡ししながら、今後も継続・発展して行くことは確実である。

■ 成果の広報・公表

講習参加者によるSNSネットワークを立ち上げ、今後のための情報共有を図っている。また事業の様子は、本プロジェクトや協力団体のフェイスブックページなどを通して広報を行った。また事業の様子を伝えるパワーポイントファイルを作成し、申請団体の加盟企業で報告を行った。報告会は長崎大学、マヒドン大学でも教官とのミーティングを開き、今後の方向などを話し合った。日本車椅子シーティング協会では2019年6月に定期総会を開催するが、その場でも事業参加者による報告を行う予定である。マヒドン大学理学療法学部では毎年ラオスとミャンマーの理学療法士を研修生として受け入れているが、強化段ボール椅子を安価で容易な姿勢保持装置として紹介し、関心を呼んでいる。

■ 今後の展開

今回の事業を通して椅子および姿勢支持部セット

の仕様は方向が定まり、またトライウォール・タイランド社およびタイ・イノアック社の協力を得て、タイ産材料の安価な供給の目処も立った。次の課題は、製作や普及を容易にするための教材やマニュアル、指導法の確立である。これに関しては2019年5月にタイ国立マヒドン大学理学療法学部の教官や障がい児施設の理学療法士を対象とする指導者講習を開催済みで、10月にはその受講者が講師となり、本プロジェクトの専門家がスーパーヴァイズする形でタイ人理学療法士・作業療法士向けに、今回開発した座位保持キットを用いた姿勢保持基礎講習会を開催する予定である。それに向けて、タイに合った初級者向け教材、マニュアル、講習プログラムを、マヒドン大学教官と本プロジェクト専門家の協力のもとに鋭意開発中である。マヒドン大学はラオス、ミャンマーをはじめアジア各国の大学に広いネットワークを有するため、2019年度に開発される教材キットは、姿勢保持の学習と実践をより身近なものとし、アジアの障がい児・者の生活の質向上に大きく寄与するであろう。